

『だれかの笑顔のために』

3月 新たな旅立ちを前に

3月は、1年間の締めくくりの時期でもあり、新たな旅立ちの準備の時期でもあります。

今、6年生は卒業式に向けての準備を進めていますが、また3年後には将来の生き方(職業)を考えて、どの高校に進学するかについて考える時期が来ます。

今から10年以上も前のことですが、「就職のことで悩んでいます。」と相談を受けたことがあります。その生徒は高校3年生でした。この生徒が中学1年生のときの担任が私でした。小学校のときから不登校気味であった生徒ですが、1年生のときはなんとかがんばることができました。しかし2年生から不登校状態になってしまい、卒業を迎える時期まで不登校の状況は続きました。この生徒が2年生のときも3年生のときも担任をはずれていた私ですが、時間があるときはこの生徒の家庭訪問を繰り返しました。卒業を迎えるとき、「何度も家庭訪問をしてくれてとても感謝しています。」との言葉をくれました。高校入学後はほとんど欠席もなく登校し、機会があれば私に連絡をくれていました。そして卒業を間に控えて就職先を決める時期がきていました。以前から希望していた進路(就職先)に進むことがかなわなかったようなのです。そんな状況の中で高校の先生は専門学校への進学も勧められたようです。母と兄と三人暮らしをしている彼女は、私にこう言いました。

「母は4時間ぐらいの睡眠しかとらず、毎日はたらいてがんばっている。

もうこれ以上母に迷惑をかけたくない・・・就職したい。」

家庭訪問を繰り返すことで見えてきた彼女の暮らしがあります。だからこそ、この言葉に込められた彼女の思いが痛いほどよく分かりました。

小学生のみなさんは、まだ進学や就職について具体的には考えていないかもしれません。しかし、その時が必ずやってきます。少しずつ、自分の進路(生き方)について考えるようにしてほしいと思っています。ある高校生の詩を紹介します。

「わたしはこの道を歩いて行く」 K高校 衛生看護科 2年

昔、幼い頃 デザイナーに憧っていました はなやかなその世界に憧っていました
だから あなたは看護師になるんだと言われたとき イヤダ！ と泣いたわたし
白衣の天使なんか ナイチンゲールなんかに ただの一度も憧れたことのなかったわたしです
今、わたしは 看護師の道を歩いています 仕事がいやで泣いたことも
ホームシックで泣いたことも 決して忘れることができません

患者さんが・・・一人の人間が わたしの目の前で亡くなりました 悲しみと驚き、そして涙
神を信じたことのないわたしが祈りました この人を助けてください 奇跡を起こしてください
呼吸がとまり 指の先やくちびるが紫色に変わり やがて心臓はとまった
神はいなかった 奇跡は起こらなかった 何もかも捨てて逃げ出したかった
もう何もかも いやになったんです

患者さんがわたしに言ってくれます あなたが、一番よくしてくれる・・・と
そんなことばに 涙が出るほどうれしい ああ、この道を選んでよかったと・・・
半年間 めまぐるしいほどにいろんなことがありました
人間の命の大切さ そしてもろさ いろんなことを学び見てきたわたし

つらいことも 苦しいことも 逃げ出したくなるようなこともあります
でも、わたしはこの道を歩いて行きます
決して心から好きで選んだ道ではないけれど 自分で選んだ道だから最後まで貫いてゆきたい
ほんとうにこの道を選んでよかったと 心から思える日まで 生きてゆきたい

